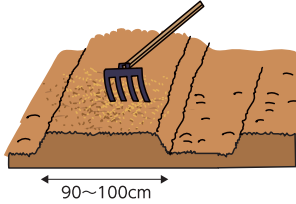
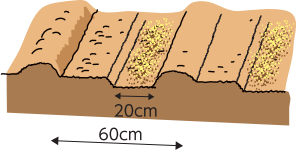


図1 畑の準備(ベッド植え)



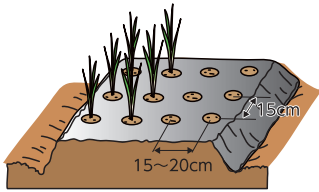
90~100cm
1㎡当たり化成肥料100g、過リン酸石灰50g、堆肥2kgを入れ、よく混合してからベッドを作る

図2 畑の準備(すじ植え)



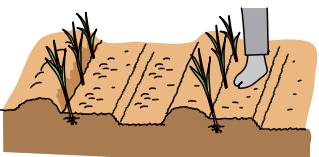
溝1m当たり化成肥料50g、過リン酸石灰30g、堆肥1kgを入れて、土と混合する

図3 植え付け(ベッド植え)



条間15~20cm、株間15cmに植え付ける

図4 植え付け(すじ植え)



株間10cm、深さは苗の白い部分まで土を掛ける。株元を足で踏んでおく

本文で紹介した種子などは、JAでお取り寄せできます

早生品種は「ソニック」などが強み、中晩生品種は貯蔵性に優れるのが強みです。長い間収穫を楽しむには、早生と中生を一緒に作ることをお勧めします。

早生品種は「ソニック」など、中生品種は「アトン」「O・K黄」(2品種ともタキイ種苗)などが良いでしょう。

なお、サラダ用の赤系品種には

「湘南レッド」(サカタのタネ)などがあります。

「畑の準備」
植え付けの2週間前に、畑1㎡あたり苦土石灰100gを散布し、よく耕しておきます。その1週間後にN・P・K 15・15・15%の化成肥料100g、過リン酸石灰50g、堆肥2kgを全面にまき、深さ20cmまで耕します。

ベッド植えの場合は、幅90cmの栽培床に4条植えします(図1)。畝にすじ植え(1条植え)する場合、幅60cmの畝に幅20cmの溝を作り、溝1mあたり化成肥料50g、過リン酸石灰30g、堆肥1kgを入れ、土とよく混ぜます(図2)。

「植え付け」
11月に入ると、苗の販売が始まります。草丈20~25cm、太さ5mm程度の苗を購入し、霜が降りるまでに植え付けましょう。

ベッド植えでは、マルチ栽培と

1月上旬~中旬に1回、2月中旬~3月中旬にもう1回、1㎡あたり化成肥料20gを株元にまき、土寄せします。マルチ栽培では、株元に化成肥料を施します。

「病害虫の防除」
葉が白く、カスリ状になるネギアザミウマ被害は、オルトラン水和剤などで防除します。

さび病やべと病は、ジマンダイセン水和剤などで予防しましょう。

「収穫」
畑全体の7~8割の莖葉が倒れた時期に、引き抜いて収穫します。2~3日、日に当たって干してから、数球ずつ束ねて風通しの良い所に吊るして、貯蔵します。

タマネギの生育は、15~20℃の冷涼な気候が適し、10℃以下では生育が停止しますが、春になり気温が上がると、再び肥大します。



「追肥」
1月上旬~中旬に1回、2月中旬~3月中旬にもう1回、1㎡あたり化成肥料20gを株元にまき、土寄せします。マルチ栽培では、株元に化成肥料を施します。

「病害虫の防除」
葉が白く、カスリ状になるネギアザミウマ被害は、オルトラン水和剤などで防除します。

さび病やべと病は、ジマンダイセン水和剤などで予防しましょう。

「収穫」
畑全体の7~8割の莖葉が倒れた時期に、引き抜いて収穫します。2~3日、日に当たって干してから、数球ずつ束ねて風通しの良い所に吊るして、貯蔵します。

いって、黒ポリマルチを張る事で雑草が抑えられるうえ、地温が上がって生育が良くなります。あらかじめ穴が開いているマルチを使う場合は、(図3)を参考に、穴の規格に応じて、条間や株間を調整しましょう。すじ植えの場合は、株間10cm程度にします(図4)。

肥料取締法に基づく表示	特徴	商品外観	
窒素全量 2.2% りん酸全量 4.3% 加里全量 3.1% 炭素窒素比 9 ※石灰含有量は15%未満	・砂状 ・0~3mmの網で選り分け ・水分が少なく変質しにくい		新製品
窒素全量 3.1% りん酸全量 3.5% 加里全量 2.3% 炭素窒素比 7	・パウダー状 ・0~7mmの網で選り分け		旧製品

「くみあい発酵けいふん」製品形状の変更について

皆さまにご愛顧いただいている「くみあい発酵けいふん」は近く均一に散布しやすいよう、砂状に形を変え、けいふん特有の匂いを抑えた製品にリニューアルします。年内を目安に、順次新製品に切り替えていきますので、よろしくお願ひします。

購買課からのお知らせ